

令和4年(2022年)版

Yomo Yomo

～10代のあなたに～

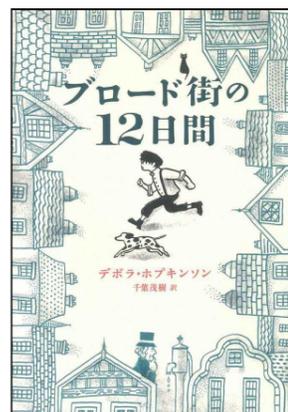
感染症と闘う

『ブロード街の12日間』

デボラ・ホプキンソン／著 千葉茂樹／訳
あすなろ書房 2014年発行

ロンドンで、「青い恐怖」と呼ばれるコレラが発生。泥さらいの少年イールの周りでもバタバタと人が倒れていく。この伝染病の原因は悪い空気なのか？イールは、スノウ博士の助手として街を駆けまわり、頭をフル回転させて、真実に迫っていく。

1854年のコレラ大発生の史実を元に描かれたスリリングな冒険物語。

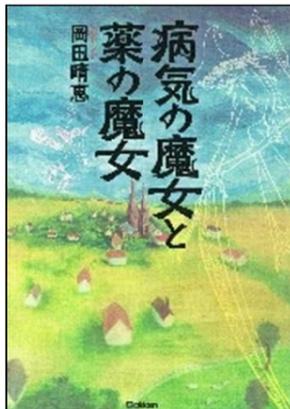


『病気の魔女と薬の魔女』

おかだはるえ 岡田晴恵／著 学習研究社 2008年発行

世界中の魔女が集うワルプルギスの祭りの夜、コレラの魔女を頭に病気の魔女たちが、会議を開いた。そこで、人間に病気を流行させる計画を立てられた。人間の世界に住む魔女のローズは、計画を阻止しようとワクチンの魔女の元で修行に励む。

感染症の研究者が専門知識を交えて描くファンタジー。



『コロナの時代を生きるためのファクトチェック』

たていわよういちろう 立岩陽一郎／著 講談社 2020年発行

世間に「コロナ」というウイルス名が広がり始めたころ、店頭からトイレットペーパーが消えたのはなぜか。新聞・テレビ・ネット・あらゆる噂、世界中に情報があふれる中で、何が事実で何が嘘かを確認する作業が、「ファクトチェック」です。冷静に情報と向き合うために、だれもが身につけるべき、生きる術です。



医師が描くミステリー×ファンタジー

『ムゲンのi』上下巻

ちねんみきと 知念実希人／著 双葉社 2019年発行

愛衣は、眠ったまま目が覚めない難病患者の主治医となった。沖縄でユタ（シャーマン）をしていた愛衣の祖母は、夢を見続ける患者は現実に絶望し、マブイ（魂）を失ったからだを教えてくれた。失ってしまったマブイを元の体に戻すため、祖母の不思議な力を受け継いだ愛衣は患者の夢の中に入り、マブイグミ（魂の救済）を試みる。



医療の世界で働く人たち

『「在宅医療」で働く人の一日』

WILL ども知育研究所／編著 保育社 2018年発行

『空飛ぶ救命救急室 ドクターヘリの秘密』

わけこうじ 和氣晃司／著 彩流社 2018年発行



医療の現場は、病院だけではなく。自宅で療養している患者のために、医師たちが患者の自宅に訪問する在宅医療。すぐに治療が必要な人のために、医師ごとヘリで現場に飛んで病院に向かう間も治療が行われるドクターヘリ。様々なかたちの医療、そこで活躍する人たちの姿を知ってください。

編集・発行：箕面市立図書館 箕面市立小・中学校図書館
問い合わせ先：箕面市立中央図書館
TEL 072-722-4580 FAX 072-724-9697
発行日：令和4年(2022年)1月



箕面市立図書館
ホームページ

☆YomoYomoは箕面市立図書館の
ホームページからも確認できます。

箕面市立図書館 おすすめの本

検索

司書のおすすめ！！

ベストセクション

どの本を読んでも面白いよ♪

『保健室経由、かねやま本館。』1～4巻

まつもと 松素めぐり／著 おとないちあき／装画・挿画 講談社 2020年発行

前の学校ではクラスの人気者だったのに、引っ越してきた東京では仲間はずれにされたサーマ。体調が悪くなり、駆け込んだ保健室の床下にあったのは、「かねやま本館」という中学生専門の湯治場だった。行くたびにお湯の色や効能が変わり、その日の心にぴったりの温泉で休むことができる。そこでサーマは、意外な人物に出会う。



『強制終了、いつか再起動』

よしのまりこ 吉野万理子／著 講談社 2021年発行

転校してクラスになじめない加地隆秋は、家庭教師の大学生に薬物をすすめられる。クラスメイトのYouTuber伊佐木周伍と麻矢夕都希は、隆秋の異変に気付き、手を差し伸べるのだが、簡単には抜け出せない。中学生にでも日常生活に潜む薬物の誘惑。三人はこの問題にどう向き合い、乗り越えるのか。

『世界に教えたい日本のごはんWASHOKU』

イラスト&英語でガイド

さわだみかこ 沢田眉香子／編 リース恵実／訳 かわむらじゅんべい 川村淳平／画 淡交社 2021年発行

ユネスコ無形文化遺産の和食。刺身、うどん、お好み焼き、煮物など。身近な料理だけど、歴史は古い。海外の揚げ物を和食化した天ぷら。江戸時代に屋台で大人気だった握り寿司。オムライス、ハンバーグなど、西洋料理を元に日本化した洋食。ラーメンやお好み焼きのパーツ分解図は必見！



『火狩りの王』全四巻

ひなたりえこ 日向理恵子／作 やまだあきひろ 山田章博／絵 ほるぷ出版

2018年～2020年発行

人類最終戦争後、人は、近くで火が燃えると発火する体になってしまった。人々は結界に守られた村で暮らし、安全に使える火は、炎魔という魔物からしか採れない。火狩りと呼ばれる者たちが、命がけで結界を越え、炎魔を狩りに黒い森に入る。ある時、火狩りたちは、黒い森の異変に気づく。この世界の秘密が暴かれ始めたのだ。



『AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』

にわたあんじゅ わたなべひでのり 庭田杏珠×渡邊英徳／著（光文社新書）

光文社新書 2020年発行

戦時中の写真はモノクロです。そのことが戦争を自分ごととして考えるきっかけを奪っているのではないかという問いから、白黒写真をカラー化するプロジェクトが始まりました。当時を知る人との対話も参考に彩色した数々の写真は、時代の空気感さえも鮮明に伝えます。私たちは何を受け止め、未来につなげていけるでしょう。



『教室に並んだ背表紙』

あいざわさこ 相沢沙呼／著 集英社 2020年発行

陰キャと言われた読書家のあおちゃん、他人の読書感想文をパクろうとしているあかね、二次元キャラに恋する萌香…。それぞれが自分の居場所を求めてやってきた図書室で、司書・しおりさんに出会います。すべての問題が一気に解決！とはいかないけれど、人と本とが紡ぎ出す空間・時間の中で、次に踏み出す一歩をみつけます。



『教室に並んだ背表紙』
相沢沙呼／著 集英社

『橋の上の子どもたち』

パドマ・ヴェンカトラン／作 たなか なつこ 田中奈津子／訳 講談社 2020年発行

インドに暮らす実際の子どもたちの話を元にした物語。少女ヴィジは暴力を振るう父親から逃げるため、姉のラクと家を出て、橋の上で暮らし始めた。ドロドロのゴミを集め、物売りをしながら、ヴィジは障害のあるラクとずっと一緒に生きていこうと決めていた。でも、現実想像以上に厳しく、ラクは病気になってしまう。

